

新規就農者のイチゴのハダニ類天敵導入支援

高島農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

C氏は農業大学卒業後、平成30年3月から少量土壌培地耕によるイチゴ栽培を始めました。令和元年12月～令和2年5月収穫となる2作目は、育苗期からのハダニ類の大発生により苗質が悪かったために、本ぼ定植後の株の初期生育量を確保することができず、年内収量を確保することができませんでした。また、本ぼ定植直前までにある程度ハダニ類を抑制し、11月に天敵を導入しましたが、ハダニ類の密度が高く、十分に天敵を定着させることができませんでした。

今作は、育苗期からハダニ類を抑制し、天敵利用による環境にやさしいイチゴ栽培が成功するよう支援しました。

【普及活動の内容】

令和2年3～5月は育苗と収穫が重なる時期で、本ぼハウスから育苗ハウスへのハダニ類の持ち込みリスクが非常に高い時期です。そこで、管理作業の順番の徹底、育苗ハウスへの飛び込み防止のためのネットの設置、本ぼの片付けの手順の支援など、ハダニ類の飛び込み防止対策を講じました。また、本ぼハウスを片付けた6月以降も、C氏とともにハダニ類がいないかどうかを観察し続け、必要最低限の防除で済むように支援しました。

【普及活動の成果】

育苗期間中から現在までハダニ類の発生は見られず、10月下旬にハダニ類の天敵を導入することができました。しかし、育苗期間の終了直前からヨトウムシやアブラムシ類が断続的に発生し、発生を確認する度に防除をする必要があったため、前作よりは防除回数を減らすことができたものの、理想とする回数まで防除回数を減らすことができませんでした。

来作は、天敵導入までの防除計画を見直し、ハダニ類以外の害虫も抑制し、収穫の時期の防除回数をさらに減らして、人にも環境にもやさしいイチゴ栽培が成功できるよう支援していきます。



写真1 ハダニ類の飛び込み防止のためのネットによる囲い



写真2 育苗管理をするC氏

◎対象者の意見

前作はハダニ類に苦しめられたが、今作は発生させることなく管理ができて非常に嬉しい。しかし、ヨトウムシやアブラムシ類がなかなか断ち切れなかったので、来作はそれらも防げるよう支援願いたい（生産者）。